

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製 品 名：マジカル SP-3 混和液
会 社：日本ジッコウ株式会社
住 所：神戸市西区南別府 1 丁目 1 4 番 6 号
担 当 部 門：技術企画部
電 話 番 号：078-974-2909
F A X 番号：078-974-8631

2. 危険有害性の要約

【GHS 分類】

健康に対する有害性：生殖毒性 区分2

※記載の無いものは、「分類対象外」又は「分類できない」

【GHS ラベル要素】

「絵表示」



「注意喚起語」

警告

「危険有害性情報」

生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別：混合物

化学名又は一般名：アクリロニトリル・アクリル酸アルキルエステル・メタクリル酸共重合体水性エマルジョン

官報公示整理番号：共重合体;6-487

アクリル酸ノルマルブチル;2-989

ポリオキシエチレンノニルフェニルエーテル;7-172

危険有害成分：・労働安全衛生法第 57 条の 2(通知対象物質(アクリル酸ノルマルブチル)、CAS 番号 141-32-2) <0.3%
・P R T R 法(第 1 種指定化学物質 (ポリオキシエチレンノニルフェニルエーテル)、CAS 番号 9016-45-9) 1.7%

4. 応急措置

吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、安静・保温に努め、医師の診断を受ける。

皮膚に付着した場合：付着物をふき取り、水と石鹸でよく洗う。

かゆみ、炎症が出た場合は、直ちに医師の診断を受ける。

目に入った場合：大量の清浄な流水で15分以上洗眼した後、医師の診断を受ける。

飲み込んだ場合：無理に吐き出させないで、水で口の中をよく洗い、直ちに医師の診断を受ける。

5. 火災時の措置

- 消火剤：水、泡、粉末、二酸化炭素、乾燥砂
使ってはならない消火剤：特になし
特有の消火方法：火元への燃焼源を断ち、消火剤を使用して風上から消火する。
消火を行う者の保護：保護衣を着用するほか、状況によっては、不浸透性手袋、有機ガス用防毒マスク等の保護具を着用する。
-

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項・保護具：作業の際には、長靴・手袋・保護眼鏡などの保護具を着用する。
環境に対する注意事項：河川・湖沼等に流入すると広範囲にわたり白濁させる。
河川・湖沼等の公共水域への流入は絶対に避ける、
回収・中和：少量漏洩時：布・紙ウェス・おが屑・砂などに吸収させて回収する。
大量漏洩時：間に合わせの土堤を作るなどして拡散を防ぎ、バキューム等で吸い上げ容器に回収する。
※注意：河川・湖沼等に流入した場合は、必要に応じ、消防署・都道府県市町村の公害関連部署・河川管理局・水道局・保健所・農協・漁協等に連絡を取る。
-

7. 取扱い及び保管上の注意

- 取扱い：漏洩を防止する。
取扱いは換気の良い場所で取扱う。
スプレーミストや蒸気を発生する作業の場合は局所排気装置を設置するか保護マスクを着用する。
目・皮膚への接触を防止するため、状況に応じ、保護眼鏡・保護手袋などの保護具を着用する。
水禁忌物質との接触を避ける。
保管：密栓し、凍結・直射日光を避け、屋内で保管する。貯蔵温度は5～35℃が好ましく温度変化の大きい戸外は避ける。
水禁忌物質との同一場所での保管は避ける。
皮張り防止のため、使用後は密閉して保管する。
混触禁止物質：「10. 安全性及び反応性」を参照。
容器包装材料：上記「保管」の条件を満足する容器を使用すること。
-

8. 暴露防止及び保護措置

- 設備対策：管理濃度を参考に、局所排気装置などの排気のための装置を設置する。
作業場には、洗顔器を設置すること。

許容濃度：以下の値を参照。

アクリル酸ノルマルブチル 2 ppm ※ACGIH（2008 年度版）

保護具

- 呼吸器の保護具：状況に応じ、有機ガス用保護マスクを着用する。
手の保護具：状況に応じ、PE、ゴム製の非浸透性の手袋を着用する。
目の保護具：状況に応じ、保護眼鏡を着用する。
皮膚及び身体の保護具：状況に応じ、厚手の布製で長袖、長ズボンを着用することが望ましい。

9. 物理的及び化学的性質

外観	: 乳白色水性液体 (エマルジョン)
臭い	: ほとんどなし
p H	: 8 ～ 9
融点／凝固点	: 約 0℃
沸点、初留点と沸騰範囲	: 約 100℃
引火点	: データなし
燃焼または爆発範囲	: データなし
蒸気圧	: データなし
蒸気密度	: データなし
比重	: 約 1.0
溶解性	: 水と任意に混合する。
n-オクタノール／水分配係数	: 知見なし
自然発火温度	: データなし
分解温度	: データなし

10. 安定性及び反応性

安定性	: 通常のご取り扱い条件においては安定であるが、電解質や凝集剤とは凝集を起こす。
危険有害反応可能性	: 水禁忌物質との接触による反応。
避けるべき条件	: 水禁忌物質との接触
混触危険物質	: 水禁忌物質
危険有害な分解生成物	: 特になし

11. 有害性情報

GHS 分類

生殖毒性: 区分 2

※記載の無いものは「分類対象外」又は「分類できない」

12. 環境影響情報

生態毒性: GHS 分類に「分類対象外」又は「分類できない」
残留性/分解性: 知見なし
生体蓄積性: 知見なし
土壌中への移動性: 知見なし
その他: 河川・湖沼等に流入すると広範囲にわたり白濁汚染することになる。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物 : 廃棄は原則として焼却とする。そのままの状態では絶対廃棄しない。
廃棄は許可を得た産業廃棄物処理業者に委託する。
洗浄水等の廃水は凝集沈殿、活性汚泥などの処理により清浄にしてから排出する。
汚染容器・包装: 内容物を完全に除いた後処分する。処理は法規の規定に従って行う。

14. 輸送上の注意

輸送時の特定の安全対策：容器の破損、漏れのないことを確かめ、衝撃、転倒、落下、容器破損のないよう荷崩れ防止を確実に行う。
道路や床にこぼした場合は、速やかに回収・清掃を行う。
排水系等の水面に漏出した場合は、河川や海への悪影響を考え全て回収すること。

15. 適用法令

労働安全衛生法：特化則	該当しない
有機則	該当しない
第 5 7 条 1（表示対象物質）	該当しない
第 5 7 条 2（通知対象物質）	アクリル酸ノルマルブチル
P R T R 法	: ポリオキシエチレンノニルフェニルエーテル（第 1 種指定化学物質）
毒劇物取締法	: 該当しない
消防法	: 該当しない適用法令:化学物質管理促進法 (PRTR法)：該当しない。
その他	: 一般論としては、廃棄物の処理及び清掃に関する法律・水質汚濁防止法には関与する。

16. その他の情報

記載内容は、現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関しては情報提供であり、いかなる保証もなすものではありません。
また、記載事項は通常の取扱いを対象としたものですので、特別な取扱いをする場合には、新たに用途・用法に適した安全対策を実施の上、お取扱い願います。
記載内容の問い合わせ先：「1. 化学物質等及び会社情報」の欄をご参照下さい。
